年度予算等要望書を提出した。当日は廣瀬会長他、舟久保副会長・戸矢崎副会長・片平副会長・鍵谷副会長と事務局が出席。

はじめに廣瀬会長より小池知事へ予算等要望の概要を説明、その後意見交換が行われた。

工団連からは初めに、『コロナ禍、極端な円安、エネルギー価格の上昇など中小企業を取巻く環境の極めて厳しい現状を訴え、早期の経済活動正常化、将来を見据えた事業開発支援、人材確保・育成支援への東京都の力強い取組をお願い。更に、ものづくり中小企業を取巻く環境は依然として厳しく、特にウクライナ情勢の緊迫化に伴う「原材料価格・エネルギー費の上昇等は経営に打撃を与えており、これら課題の解決に対しては今後も要望を継続したい。

それに対して小池知事からは、東京のものづくり中小企業の代表である工団連活動ならびに、ものづくり中小企業が直面する様々な課題への理解と、今後の引続いての支援の言葉が有った。

更に、坂本産業労働局長ならびに福崎都教育庁次長から要望した諸課題についての説明があり活動は終了した。

今年度、工団連は9月以降3回にわたり東京都ならびに都議会各会派・自民党東京都連への予算要望を行なってきたが今回の知事への要望を持って

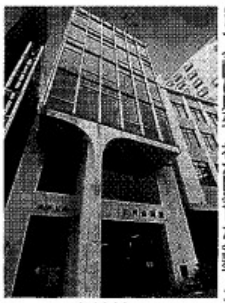
小池知事へ要望書手交

企業リレー探訪 ㉕

石川金網株式会社
代表取締役社長　石川　幸男

IKスクリーン

ワークショップ



本社社屋

おかげさまで石川金網は、東京の荒川区で創業し今年で100周年を迎える事が出来ました。

誠に有難うございます。本稿では町工場の歩みと取り組みについてご紹介させて頂きます。

創業した100年前日本は混迷な状態でした。次の年には関東大震災が発生、大正の大不況に突入しようとする時期です。創業者石川幸（いしかわほう）は青様のお役に立つ仕事は何か、喜んで頂ける仕事は何かと考えた結果発明家であった父、雷次郎の思いを踏襲し金網製造を開始しました。当時は時代の流れから軍需産業として戦艦、航空機の部品、電波探知機の部品を製作していました。関東大震災で工場が焼失。さらに太平洋戦争でも工場が焼失し軍需産業も無くなりました。

二代目として会社を引き継いだ石川賢省（いしかわけんしょう）は戦後の高度成長期、オンリーワンの製品の製造を目指し父と共に新製品の開発を目指しました。金網を製造する為の鉄織機を開発し、鉄織機で製作した杉綾織の金網をアンコの裏漉し用として全国に販売し、現在でも一部の会社で使用されています。その他、様々な金網を製作して来ました。

「石川金網100年の歩み」

高度成長を支えたのは自動車産業と電器産業です。弊社も自動車部品としてオイルフィルターなどの金網を製作。電器部品としてドライヤー、スピーカー、マイクロフォンなどの金網を製作して来ました。これらの製品は残念ながら海外製へと変わってしまいましたが、一部はまだ継続して製作しています。そんな中、開発されたのがパンチングデザインパネル「パーフォアート」です。パーフォアートとは300トンプレス機と弊社が開発した金型、コンピューター制御装置、オリジナルデザインソフトを用い製作します。アルミの板にデザイン製のある穴を開けたパネルは、風切り音の無いデザインパネルとしてライオンズマンションなど超高層マンションの手すりに用いられました。また、様々な商業施設のファサードやフェンスにも採用されました。オンリーワン商品とし特許3件と実用新案2件を取得しました。昭和から平成、令和と時代は変わりましたが高度成長期から現在までいまだに使用されているのが「IKスクリーン」です。これは、プラスチックを製造するのに使われる押出機用の金網です。プラスチックの原料、フィルム、シート、ゴム、電線等の製造用のフィルターです。現在は様々な押出機に対応し様々な形状のフィルターを製作しています。そして、あらゆる産業で使われているとも言って良い「篩（ふるい）」です。篩の主な用途は粉の篩い分けです。弊社の特徴は、大型の篩の張り替えからお客さまのニーズに合わせた篩の製作です。最近では、金網折り紙「おりあみ／ORIAMI」及び異素材を組み合わせた金網「KANAORI」を開発しました。

弊社のモットーは、社員と経営者が一体になりどんな時代においてもお客さまのお役に立つ商品、喜んで頂ける商品を作り続けることです。時代の変化の中、時代に要求される製品開発に常に挑戦致します。そしてこれからも常に地域社会の発展と世界の進歩と調和を目指します。

荒川中央工業会所属
創業：1922年（大正11年）
設立：1949年（昭和24年）
資本金：3,000万円
事業内容：各種金属フィルター・パンチングメタルの製造販売・織金網の製造販売

若手中堅社員業務改善研修開催報

工団連は本年度研修企画第2弾として、11月29日会員企業の中堅社員を対象に「業務改善研修」を会場対面方式で開催した。

「効率的に時間を使い、最大の成果を出し講義、個人・グループワークに熱心に取り組んだ。当初は10社19名の申込みが有ったが前日・当日に体調不良等によりやむなく欠席の連絡もありコロナ禍を色濃く反映した開催となった。終了後のアンケートでは満足度についても全員から前向

研修風景

本研修は中堅・ベテラン社員が参加し事効率を上げ、生産性を高める」等を目的に実施したもの。当日は6地域団体の8社より15名の若手・中堅社員が参加

（参加者の所属団体）
・江戸川工場協会　3名
・戸塚落合　2名
・品川産協（2社）　4名
・大田工連　1名
・板橋産連（2社）　3名
・多摩高度化　2名

では『様々な業種・年代の他社スタッフとのディスカッションがためになった』『どこでも同様の問題を抱えていることが分かり改善意欲が沸いた』などがあげられ、今後の実務場面での成果を期待したい。

団体のご支援・ご協力に御礼申し上げます。

山元オブラート株式会社
代表取締役　片平　三郎
東京都世田谷区三宿一―八―一〇
電話　〇三（三四一一）八三三一
電話　〇三（三三八四）四四一一
FAX　〇三（三三八四）四四一五

株式会社和広
代表取締役　鍵谷　直樹
東京都町田市小山ヶ丘二―二―五
電話　〇四二（七九八）七五三一

株式会社宇野澤虎雄組鐵工所
取締役会長　宇野澤虎雄
取締役社長　樋口　勉
東京都大田区下丸子二―三六―四〇
電話　〇三（三七五九）四一九一

葛飾区産業連盟
会長　瀧澤一郎
事務局長　宮鍋益治

一般社団法人江戸川工場協会
会長　横山　巌
事務局長　金田栄治

一般社団法人墨田産業協会
会長　犬飼功一

一般社団法人戸塚落合経営協議会
会長　古屋芳彦
事務長　永井弘子

一般社団法人文京区商工協会
会長　押見守康
常任事務局長　小出哲也
文京区本郷四―一五―一四
TEL　三八一五―〇二二二

東京都品川区豊町四―二〇―一
電話　〇三（三七八七）三四一一（代）

東工・バレックス株式会社
取締役会長　横山　巌
東京都江戸川区松島四―二―一七
電話　〇三（三六八五五）五一六一

株式会社　明　輝
代表取締役　黒柳　貴宏
神奈川県厚木市金田一〇三〇
電話　〇四六（二二四）二二五一

株式会社　奈良機械製作所
代表取締役　奈良　自起
東京都大田区城南島二―五―七
電話　〇三（三七九〇）八〇一一

渋谷区工業協会
会長　遠藤久介
事務局長　木村宏史

中野工業産業協会
会長　宮島茂明
事務局　中野区中野一―一三―一四　中野区産業振興センター二階
電話　〇三（三三八〇）一一二二

公益社団法人世田谷工業振興協会
会長　片平三郎
専務理事　山崎廣孝

赤坂興業会
会長　吉田雅之
事務局長　天野良行

三田工業会
会長　中村善典
事務局職員一同

文京区民センター内
電話　〇三（三八一二）二〇七三

一般社団法人目黒区産業連合会
会長　團村　守男
東京都目黒区目黒二丁目四番三六号　目黒区民センター内
電話　〇三（三七一二）五一六四

一般社団法人大田工業連合会
会長　広瀬　安宏
東京都大田区南蒲田一―二〇―二〇　大田区産業プラザ内
電話　〇三（三七三七）〇七九七

一般社団法人板橋産業連合会
会長　大島　隆夫
副会長一同
電話　〇三（三九六二）〇二一二

高輪工業会
会長　井口修一
事務局長　岡田欣也

一般社団法人品川産業協会
会長　廣瀬隆博
事務局長　則本貴司

日暮里工業会
会長　石川雅一
事務局長　坂井俊一

一般社団法人豊島産業協会
会長　白井宏一
事務局長　伊東伸治

一般社団法人足立産業協会
会長　渦波　茂
事務局長　渡辺時雄

一般社団法人北産業連合会
会長　齊藤正美
東京都北区王子本町一―二―三
電話　〇三（三九〇〇）三八一二

一般社団法人練馬産業連合会
会長　井口　薫

多摩高度化事業協同組合
代表理事　鍵谷敏博
専務理事　菅野英昭